

開催日時：2002年8月28日（水）13：30～16：45

場 所：石清水八幡宮 青少年文化体育研修センター

参加者数：委員13名（うち1名は部会長の要請により参加）、招聘者4組（5名）

一般傍聴者88名

1 意見交換概要

淀川流域の自治体や消防団、住民の方々4組を招聘し、「中間とりまとめ」の治水関連について概要を報告後、20分ずつ「洪水防御・防災」をテーマとしたご意見をうかがい、委員との意見交換が行われた。

<意見発表者による主な発表内容>

- ・八幡市都市整備部次長 堀口文昭氏：市の主な災害履歴、水害に強いまちづくりなど
- ・八幡市消防団団長 藤本次郎氏：消防団の概要、昭和57年の台風10号による風水害での水防活動体験など
- ・上野市住民 木村公司氏：治水の上下流バランス、上野遊水地、川上ダム、岩倉峡の一部開削の必要性について
- ・上野市土木部部長 辻森孝重氏：水害に対する危機管理、上野遊水地計画を中心とした上野市の治水の歴史と現状など
- ・京都府防災監課長 栗田誠一郎氏：自主防災組織の重要性、治水対策への要望など

<主な意見>

- ・流域委員会の中間とりまとめでは「洪水は不可避で、行政や住民がそれぞれ役割分担を果たしていかなばならない」と提言している。行政は従来の都市計画や治水の考え方を変えていく必要があるのではないかと。
- ・行政としては理念転換の必要を感じているが、日々の業務に追われてその発想が出てこない。ハザードマップの作成などソフト面の対応は検討したいが、堤防等のハード面については国にお願いしたい。
- ・当市では以前は農業に携わる人が多かったため、地元の人々が消防団（水防団）活動に参加できた。しかし今はサラリーマン家庭、核家族が増えており、団員の高齢化も進み、人員の確保が難しくなっている。
- ・水害防御には、情報の的確な把握、自助・互助・公助による水防などが重要。しかし、洪水の最大の防御は破堤しないことが基本である。
- ・下流の浸水頻度は下がったが、上流は以前と同じで上下流のバランスが崩れている。ダムの整備、狭窄部の開削などの早期着工を。
- ・ダムや堤防など河川整備を進めたとしても、水害を完全に防ぎきれない。いつか安全になるだろうというのは幻想であり、安易に狭窄部の開削はすべきでない。
- ・20～30年後のことを考えた場合、治水に関して自治体や住民も受け身ではいけない。誰もが当事者意識を持つことが重要。

2 一般からの意見聴取

一般傍聴者から「名張川は、上流の青蓮寺ダム、名張市市街地での左岸工事などの整備はすすめられているが、市街地の右岸堤防は未整備。未整備箇所は早急に整備してほしい」との意見があった。

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を参照下さい。